

2016年3月完結

ついに完結

ノーベル賞作家の日記

没後六〇年を迎えた

二〇一五年に生誕二四〇年

トーマス・マン日記

全10巻

激動の時代を証言する
ヨーロッパ精神史の貴重なドキュメント

森川俊夫ほか訳
四六判／美装函入り

紀伊國屋書店

大江健三郎さん・池内紀さん 推薦!

分野：ドイツ文学、文学史

注文書

こちらの注文書にてお申し込みください。 FAX：03（6420）1354

紀伊國屋書店

お名前	取扱店・営業所名	
ご住所	TEL ()	
申込数	*お客様の個人情報は、ご注文の確認にのみ利用させていただきます。	
セット	トーマス・マン日記 全10巻セット 本体価格 134,194 円+税	
冊	森川俊夫、伊藤暢章、洲崎恵三、前田良三 訳／848頁／2016年刊 トーマス・マン日記 1918-1921 本体価格 17,000 円+税 【最終巻】	ISBN978-4-314-01133-4 C1398 ¥17000E 9784314011334
冊	岩田行一、浜川祥枝、森川俊夫 訳／736頁／1985年刊 トーマス・マン日記 1933-1934 本体価格 8,544 円+税	ISBN978-4-314-00456-5 C1398 ¥8544E 9784314004565
冊	森川俊夫 訳／760 頁／1988 年刊 トーマス・マン日記 1935-1936 本体価格 8,000 円+税	ISBN978-4-314-00498-5 C1398 ¥8000E 9784314004985
冊	森川俊夫 訳／984 頁／2000 年刊 トーマス・マン日記 1937-1939 本体価格 12,000 円+税	ISBN978-4-314-00855-6 C1398 ¥12000E 9784314008556
冊	森川俊夫、横塚祥隆 訳／1280 頁／1995 年刊 トーマス・マン日記 1940-1943 本体価格 11,650 円+税	ISBN978-4-314-00717-7 C1398 ¥11650E 9784314007177
冊	森川俊夫、佐藤正樹、田中暁 訳／928 頁／2002 年刊 トーマス・マン日記 1944-1946 本体価格 14,000 円+税	ISBN978-4-314-00909-6 C1398 ¥14000E 9784314009096
冊	森川俊夫、洲崎恵三 訳／1000 頁／2003 年刊 トーマス・マン日記 1946-1948 本体価格 16,000 円+税	ISBN978-4-314-00952-2 C1398 ¥16000E 9784314009522
冊	森川俊夫、佐藤正樹 訳／776 頁／2004 年刊 トーマス・マン日記 1949-1950 本体価格 14,000 円+税	ISBN978-4-314-00971-3 C1398 ¥14000E 9784314009713
冊	森川俊夫 訳／880 頁／2008 年刊 トーマス・マン日記 1951-1952 本体価格 16,000 円+税	ISBN978-4-314-01048-1 C1398 ¥16000E 9784314010481
冊	森川俊夫、洲崎恵三 訳／934 頁／2014 年刊 トーマス・マン日記 1953-1955 本体価格 17,000 円+税	ISBN978-4-314-01111-2 C1398 ¥17000E 9784314011112

*お問い合わせは、紀伊國屋書店ホールセール部：東京都目黒区下目黒3-7-10（営業）TEL03-6910-0519 FAX03-6420-1354

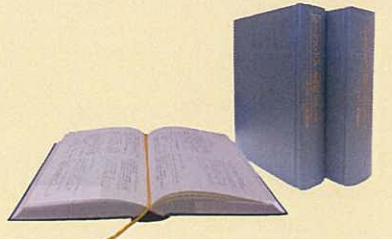
トーマス・マン日記



トーマス・マン

1875年6月6日北ドイツのリューベクに生まれる。1894年ミュンヘンに移り、1933年まで定住。1929年にはノーベル文学賞を授けられる。1933年国外講演旅行に出たまま帰国せず、スイスのチューリヒに居を構える。1936年亡命を宣言するとともにドイツ国籍を剥奪され、38年アメリカに移る。1952年以降はふたたびチューリヒ近郊キルヒベルクに定住、55年8月12日同地の病院で死去する。代表作に『ブデンブローク家の人々』（1901年）、『トニーオ・クレーガー』（1903年）、『ヴェニスに死す』（1912年）、『魔の山』（1924年）、『ヨゼフとその兄弟たち』（1933-43年）、『ヴァイマルのロッセ』（1939年）、『ファウストゥス博士』（1947年）ほかがある。

マンは故郷のドイツ・リューベクで実科高等学校に通っていた10代のころから80歳で死去するまでほとんど中断なく日記を記していた。しかしマンは確認できるかぎり二度、自ら日記を焼却し、残されたのは亡命前後の1933年から亡くなる1955年までの日記と、奇跡的に焼却を免れた「1918-1921年」の日記、27年分のみである。本全集は「死後20年間は何人も開封すべからず」と封印された全32冊、総計5,118頁の日記すべてに詳細な注を付した、文学史にとどまらない、近現代史の必備資料である。



推薦のことば

不変の定番

私は八十歳になり、小説を書くことを終りにすると心にきめて、それからの一年、そのとおりにしました。なお生き続ける私にとって、本を読むことが生きている内容です。そして、いま気付くのは、それらの本のなかで小説はただ一種、トーマス・マンの作品で、私が再確認したのは、この百年でもっとも秀れた世界文学の小説家はトーマス・マンだということです。十八歳の時『魔の山』を読んで自力でかちとった、文学についての知恵です。しかも重い辞書を自由にあつかえないので日本語で読む本を中心にしたプログラムで、日本語への翻訳によってです。

その点について私が自信を持っているのは、しかも若い人たちをとくに想定しての想いであるのは、古い本の復刊から最新のものと、トーマス・マンの翻訳はいずれも最良の本が手に入るからです。私がいまや月ごとにわずかな回数ですが書店を訪れるたび探して、ほとんど裏切られることがないのは、細い流れであれ出続けているトーマス・マン翻訳の刊本です。つねに新しい研究者の関心を引き続けるのが、トーマス・マンなのです。

加えて、目新しいが時間をかけて工夫されている各種の選集。とくにすばらしい日記。そこでだけ初対面をはたすことのできた事柄も少なくありません。篤学で発想のいい研究者を次つぎとひきつける不変の定番が、トーマス・マンなのです。



大江健三郎氏

(小説家)

亡命者による年代記

クロニクル

大きな山が動くぐあいだ。あるいは、そこにノミと槌でトンネルを穿つのに似ている。はじめは無謀としか思えなかった。それが驚きに変わった。時計の針のように一寸刻みの工程が間断なく進んでいく。いまや大山を突き破るまでになった——邦訳『トーマス・マン日記』である。

ノーベル賞作家マンの日記だが、ふつう文豪とされる人が日常的にしたため、死後、栄光に花をそえるようにして出される日記や書簡集のたぐいととは、まるでちがう。それは始まりが、ヒトラー政権成立後、国外での講演旅行のあと、長い亡命生活が理不尽な運命のようにマンにふりかかった経過からもあきらかだ。日付でいえば、一九三三年三月十五日。

それにしても索引にみる項目は並外れている。えんえんとつづく人名とその言及個所の数字は示しているのではなからうか。これは私的な備忘録ではありえない。一個人が書きとめた年代記の性格を色こくおびており、マンは亡命者という特殊な位置から同時代をつついていた。



池内紀氏

(ドイツ文学者・エッセイスト)

訳者のことば

(「訳者あとがき」より)

記述内容の興味深さは、身辺雑記の枠を大きくこえて、今日すでに評価の定まっているかに見える事件が、同時代の視角からとらえられ、時として後代にとっての死角が照射されている点にある。

森川俊夫氏

(一橋大学名誉教授)

1918-1921

【最終巻】

おそらくは「ファウストゥス博士」執筆のために利用しようとして取りのけられ、奇蹟的に「後世のために救われた」第二次大戦期の日記。「非政治的人間の考察」以後マンが民主主義者に変貌を遂げてゆく時期の貴重な記録。

森川俊夫 伊藤暢章 洲崎恵三・前田良三 訳 本体価格17,000円＋税

1933-1934

講演旅行に出たままナチ政権下のミュンヘンに戻る途を閉ざされたマン。スイス・チューリヒに居を定め、ドイツ国内での活動の可能性を模索しながらも、小説『ヨゼフとその兄弟たち』の執筆を続ける。

岩田行一、浜川祥枝、森川俊夫 訳 本体価格8,544円＋税

1935-1936

ブラハヴィーン、アメリカなど国内外での講演活動が続けるマン。ヒトラー政権がその非人間的性格を露呈するにつれて、ドイツに戻る可能性を断念。「人間愛」の思想に立ち返り、ついに亡命の意思を表明、国籍を剥奪される。

森川俊夫 訳 本体価格8,000円＋税

1937-1939

「ヒトラーの無血侵攻くらい厭うべきものではなく、それ以外なら何でもいい」というほどだ——第二次大戦前夜、マンはファシズムの危険を訴え、アメリカへの移住に踏みきる。1939年、『ヴァイマルのロッセ』を執筆。

森川俊夫 訳 本体価格12,000円＋税

1940-1943

米西海岸で新生活を始めたマンは「デモクラシーの巡回説教師」として講演活動を始め、ローズヴェルト大統領からもホワイトハウスに招かれる。このころ「ドイツの自己批判の書」「ファウストゥス博士」の執筆にとりかかる。

森川俊夫 横塚祥隆 訳 本体価格11,650円＋税

1944-1946

たゆまず「ファウストゥス博士」の執筆を続けながらも、故国ドイツに向けてラジオ放送で呼びかけを行なうマン。やがてヒトラー・ドイツは崩壊し、ドイツとヨーロッパの再建の胎動が始まる。

森川俊夫 佐藤正樹、田中暁 訳 本体価格14,000円＋税

1946-1948

大病を患い、手術から生還したマンはそれまで以上に執筆に情熱を燃やし、晩年の代表作「ファウストゥス博士」を完成させる。一方で戦後初めてヨーロッパ行きを敢行、しかしドイツへの入国はかなわなかった。

森川俊夫 洲崎恵三 訳 本体価格16,000円＋税

1949-1950

二年ぶりに故国・東西ドイツを訪問、ゲーテ賞を受賞する。帰国したマンを待っていたのは、東西冷戦のさなかマッカーシズムが吹き荒れるアメリカでの「共産主義者」としての迫害だった。1950年には「選ばれし人」を脱稿。

森川俊夫、佐藤正樹 訳 本体価格14,000円＋税

1951-1952

反動化へ走るアメリカを離れることを思案しはじめるマン。1952年末には東西対立がなお市民生活に暗い影を落とすヨーロッパはチューリヒに移住、この年、レジオン・ドヌール勲章を受章する。

森川俊夫 訳 本体価格16,000円＋税

1953-1955

老いを自覚しながらも、ピオ十二世の謁見など「祝宴」に鼓舞され、旺盛に執筆を続けるマン。1953年には「欺かれた女」と「詐欺師フェリクス・クルルの告白」が完結。死の二週間前まで書き継がれた、最晩年の日記。

森川俊夫、洲崎恵三 訳 本体価格17,000円＋税